

1月28日～3月19日

平成31年第一回市会定例会

「横浜市31年度予算案」を審査

～夢と希望を感じられる横浜の実現を目指して～

2月8日、新度予算案が市長より横浜市会に提出されました。

市長からは「予算編成にあつては、市内で開催される様々な国際的イベントやワールドクラスのクルーズポートとしての飛躍など、世界の注目が横浜に集まる大きなチャンスを活かし、次代に活力としてつなげていくことに英知を注いだ。人口減少・超高齢社会にあつても、確かな成長と発展を可能にする土台を築くためのまちづくり、経済、文化芸術、観光などの施策を総合的に進める。また、市民の安全・安心な暮らしを守るため、福祉、子育て支援、教育環境、防災などで一人ひとりに寄り添いきめ細かく対応する。そして、災害救助法の改正や外国人材の受け入れ拡大、消費税率引き上げ、幼児教育・保育の無償化などの国の動きにも万全を期し対応していく。」と市政運営の基本方針が発表されました。

予算規模は、市民生活に密着した一般会計で1兆7615億円（前年度比2.0%増）と5年連続のプラス予算となり、特別会計、公営企業会計を含めた全会計は3兆7048億円で前年度比3.1%増となっています。

予算案、注目のポイント

私は今回の予算案審査にあたり、予算第一特別委員会委員長を務めることとなりました。今号では、注目する事業についてお伝えしますが、引き続き次号以降で予算審査の様子を詳細に報告してまいります。

- 1) 中小企業への総合的な支援 小規模事業者に対する支援強化として、出張相談や少額設備導入助成、融資メニューを新設。商店街では、キャッシュレス決済の導入支援やインバウンド対策を推進。
- 2) 文化芸術創造都市の実現 新たな劇場整備の検討に加え、小学校を対象としたプロのオーケストラによる生演奏、ミュージカル、クラシックバレエの観賞機会を設けて本物体験を充実。
- 3) 大型国際スポーツイベントの開催支援 9月開幕のラグビーワールドカップと来年の東京大会では、市内で多くの競技が実施され、国内外から多くの人々が訪れ世界の注目が集まる。このチャンスを生かすとともに、次世代を担う子供たちへの「贈り物」を遺す。
- 4) SDGs 未来都市への取組 持続可能な開発目標の達成に向け、横浜型・大都市モデルを創出し、誰も取り残さないという世界的な行動を推進する。
- 5) 生活習慣病の予防対策 31年度から大腸がん検診を無料化（3年間）し、オーラルフレイル予防の普及啓発を新たに進める。※オーラルフレイルとは…滑舌の低下や食べこぼし、噛めない食品が増えるなど、口の機能が衰える状態。
- 6) 米軍施設の跡地利用 上瀬谷通信施設では土地区画整理事業や新たな公共交通の導入検討、深谷通信所では都市計画決定に向けた取組、根岸住宅地区では返還を見据えた跡地利用計画の検討を進める。
- 7) 青少年の健全育成及び困難を抱える若者の自立支援 青少年関連施設の運営を進め、ひきこもり等の困難を抱える若者に対し段階的な支援を行い、セミナーや相談会を実施する。
- 8) 児童虐待防止に向けた取組 児童相談所等の体制強化を図り、新たに未就学児童を対象に家庭訪問を実施し安全確保や実態把握調査を進める。
- 9) 減災に向けた取組 防火規制区域内の不燃化推進や、感震ブレーカー等の設置促進、河川改修による洪水対策、がけ地の安全対策、緊急輸送路ネットワークの強化を進める。
- 10) 臨海部の賑わい創出 国重要文化財「帆船日本丸」の大規模改修、オリンピック・パラリンピック期間中のホテルシップの実施、みなとみらい21地区における水際線の回遊性向上に取組む。